

脳卒中患者の早期経口摂取に向けた 1 週ごとの嚥下評価の有用性

腰塚 洋介¹⁾ 勅使河原 香枝¹⁾ 石森 卓矢¹⁾ 美原 盤²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

2) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳神経内科

[はじめに] 当院の回復期リハ病棟では、脳卒中患者の早期経口摂取に向けて、平成 29 年 6 月から嚥下障害を有する患者に対して言語聴覚士 (ST) による 1 週ごとの藤島嚥下グレード (Gr) の評価を実施した。その取り組みの有用性について報告する。

[方法] 回復期リハ病棟に経鼻経管栄養で入院した脳卒中患者 626 名を対象とし、任意評価群 (平成 23 年 6 月～平成 29 年 5 月 : 350 名)、1 週ごと評価群 (平成 29 年 6 月～令和 5 年 5 月 : 276 名) に分け、年齢、入院時 FIM、入退院時藤島嚥下 Gr、ST 実施単位、経口移行率、経口移行までの日数について検討した。

[結果] 1 週ごと評価群は、任意評価群と比較し、入院時 FIM、入院時藤島嚥下 Gr が低く、経口移行までの日数が短かった ($p < 0.05$)。その他の項目に有意差はなかった。

[考察] 1 週ごとに嚥下評価を実施することにより経口摂取訓練開始の最適なタイミングが捉えられ、早期経口摂取に繋がる可能性が示唆された。